

第二種特定鳥獣管理計画—ニホンザルの概要

目的

ニホンザルの地域個体群を長期に渡り安定的に管理し、地域住民や農林業者その他の府民、行政、研究者など多様な主体の連携のもと、人との共存を目標に、人身被害の回避、農作物等被害及び生活環境被害の軽減を図る。

管理区域

分布は府内全域

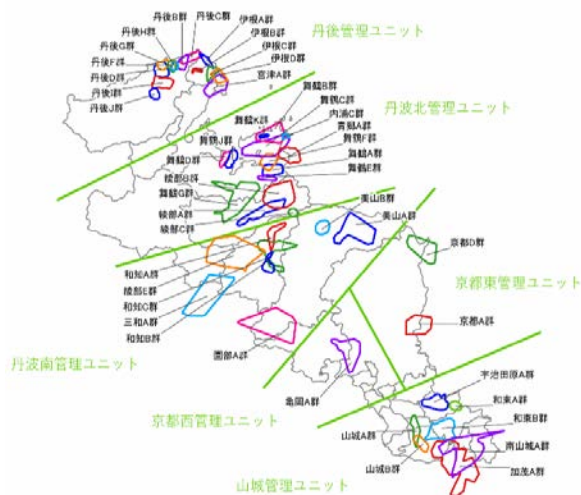
府内には45群程度が生息しており、6つの管理ユニット毎に方針を定めて管理

○丹後 ○丹波北 ○丹波南 ○京都東 ○京都西 ○山城

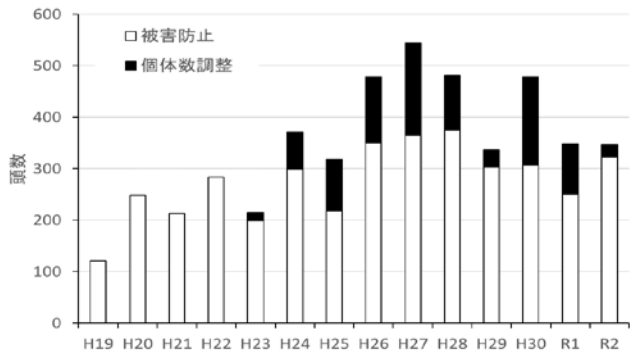
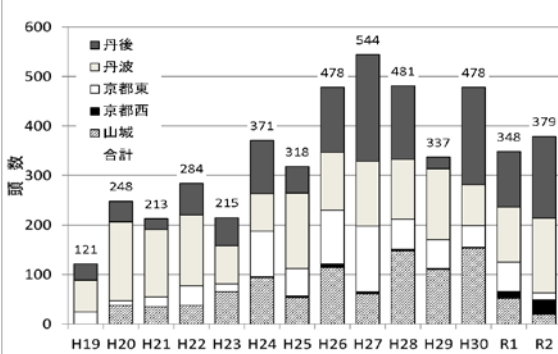
計画期間

令和4年4月1日～令和9年3月31日まで

現況



管理ユニット	群数	推定頭数	群れの名称
丹後	13	416～501 頭程度	丹後B群、丹後C群、丹後D群、丹後F群、丹後G群、丹後H群、丹後I群、丹後J群、伊根A群、伊根B群、伊根C群、伊根D群、宮津A群
丹波北	14	425～525 頭程度	舞鶴A群、舞鶴B群、舞鶴C群、舞鶴D群、舞鶴E群、舞鶴F群、舞鶴G群、舞鶴H群、舞鶴I群、舞鶴J群、舞鶴K群、内浦C群、青狹A群、綾部A群、綾部B群、綾部C群
丹波南	8	242～272 頭程度	綾部E群、美山A群、美山B群、和知A群、和知B群、和知C群、園部A群、三和A群
京都東	2	58 頭程度	京都A群、京都D群
京都西	1	30～40 頭程度	亀岡A群
山城	7	312～392 頭程度	宇治田原A群、和束A群、和束B群、加茂A群、南山城A群、山城A群、山城B群



【捕獲数の推移】↑

H27年度をピークに横ばい傾向。

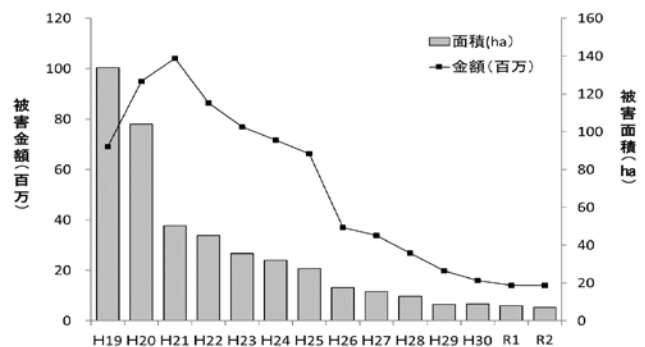
H23年度より個体数調整による捕獲を開始。

個体数調整計画群数は増加。

今後、計画的に個体数調整及び悪質個体の被害防止捕獲を進める必要がある。

【被害の推移】→

農業被害は年々減少しているが、統計に表れない家庭菜園、住居侵入、人身被害等の被害が深刻。ICT等を活用した接近警戒システムの導入等を進める必要がある。



管理方針

加害レベルが高く(レベル4)、推定生息数が多い(50頭以上)群れ10群を、捕獲と防除により加害レベルの低減を図る。

令和2年度被害金額14,000千円を令和8年度末までに半減

管理ユニット	群れ名	加害レベル	(レベル判定 ポイント合計値)	推定頭数
丹後	伊根A	4	14	95頭 (R1. 6)
丹後	伊根B	3	12	10頭
丹後	伊根C	4	13	50頭 (R1. 6)
丹後	伊根D	4	14	30~40頭
丹後	宮津A	4	13	56頭 (H30. 6)
丹後	丹後B	4	14	30~40頭
丹後	丹後C	4	14	40~50頭
丹後	丹後D	4	14	20~30頭
丹後	丹後F	3	12	20~30頭
丹後	丹後G	4	15	20~30頭
丹後	丹後H	4	15	20~30頭
丹後	丹後I	3	12	20~30頭
丹後	丹後J	2	7	5~10頭
丹波北	舞鶴A	3	12	30~40頭
丹波北	舞鶴B	4	14	20~30頭
丹波北	舞鶴C	3	12	46頭 (H30. 10)
丹波北	舞鶴D	4	14	34頭 (H29. 7)
丹波北	舞鶴E	4	15	30~40頭
丹波北	舞鶴F	3	11	20~30頭
丹波北	舞鶴G	4	14	53頭 (H28. 8)
丹波北	舞鶴J	4	13	52頭 (H30. 3)
丹波北	舞鶴K	4	13	20~30頭
丹波北	青郷A	4	13	30~40頭
丹波北	内浦C	3	12	20~30頭
丹波北	綾部A	3	12	20~30頭
丹波北	綾部B	4	14	40~50頭
丹波北	綾部C	3	12	10~20頭
丹波南	綾部E	4	14	56頭 (H30. 9)
丹波南	園部A	3	11	47頭 (R2. 8)
丹波南	三和A	3	12	27頭 (R2. 9)
丹波南	和知A	3	11	10~20頭
丹波南	和知B	2	7	10~15頭
丹波南	和知C	3	12	57頭 (H30. 12)
丹波南	美山A	3	12	30~40頭
丹波南	美山B	2	7	5~10頭
京都東	京都A	3	12	46頭 (R3. 3)
京都東	京都D	3	8	12頭 (R3. 3)
京都西	亀岡A	4	13	30~40頭
山城	宇治田原A	4	13	30~40頭
山城	南山城A	3	12	61頭 (H28. 2)
山城	加茂A	4	15	67頭 (H28. 2)
山城	和束A	2	7	4頭 (R1. 12)
山城	和束B	4	13	100~150頭
山城	山城A	4	14	30~40頭
山城	山城B	3	12	20~30頭